



ですが、毎度寂しいものです。二年三か月前にタイに来て、そのままコロナのロックダウンが半年以上。私も子供たちにも一人も友達がないまま、閉じこもるしかありませんでした。一日一本、家で映画を見ることを日課にして正気を保っていました、なんて話を書きましたね。ロックダウンが明けてからは、充分な友達ができました。私よりも長くタイにいる友達から、お得に買い物できる場所や学校のことを教わり、徐々に快適に生活できるようになりました。体力低下を回復すべく、初めてテニスにも挑戦しました。初心者テニスもいつの間にかホスト側になり、新たにタイに来た方をお誘いしました。「テニスに誘つてもらってよかったです、こんなに元気になれた」当初は鬱的状態だった彼女から先日お礼を言われて、ジーンとしました。私はタイの先輩方に助けてもらいました。私はタイの先輩方に助けてもらいました。私はタイの先輩方に助けてもらいました。

文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。「ラジ
ルの手しごと」
(マイツ出版)著者。ジュエリーと
ヴィンテージの店「メルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。

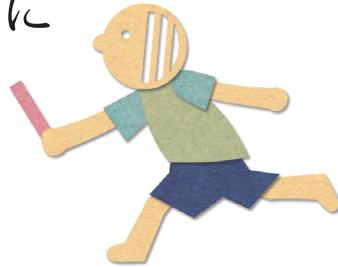
イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。『ゆ
ら ゆら ゆれる北歐風手作りモビール』(ネコ・パブリッシング)を監修。

後続の方に渡せる何かがあつたのだが、など。バンコクにはたくさんの日本人が住んでいて、私が会つたことのある人なんてほんの一、二部。ただ、同様のことが至るところで繰り返され、いろいろなのでしょう。

ほとんどの人はいつまでバンコクに住むのか分かっていません。辞令次第。将来の計画も立てづらく、子供がいれば母子で日本に帰るべきかなど、進学問題で悩みます。妻たちには生きがいにすることもできません。ハッピーでいることが家族のためと、各々、気持ちを保つて生きる妻たち、たくましいなと思います。

ふかふか漂う
第31回

タイ暮らしの終わりに



ただいま夫は日本、私と子供三人はタイ、という逆単身赴任生活をしています。この状況は二ヶ月だけの期間限定ではありますが、久しぶりの別居生活。いや、よくないです。

結婚前には遠距離恋愛というのを何年もやっていましたし、子供が小さい頃にも単身赴任の時期はありました。しかし、あの頃とは何か違う。何が違うって、夫婦間で全く会話ををしていません。子供が小さければ、「今日こんなことができるようになつたよ」なんて、ビデオ通話でもしていたと思うのですが、そんな年齢でもなく。日本とタイの時差はわずか二時間ですが、案外やっかいでもあります。こちらで夕飯の片付けが落ち着く頃には、日本の夫はもう寝ているかなというタイミングなのです。

しかし仮にも子女だけで海外で生活しているわけですから、「無事か、何か問題はないか」と、たまには聞かれてもいいのではないか。全

無数のバトンリレー

まもなく、中三の長女と小六の次男は本帰国。高三の長男のみ卒業までタイに残ります。私も日本で下の子二人のそばにいることが多くなります。長男がタイに一人で残るのです。私はまたタイに来ることはあります、ここでの「暮らし」は終わりになります。引っ越しばかりの人生になります。

く心配はされていませんね。そして
「**我を顧みれば**、『今日もお仕事お疲れ様』なんて言葉をかけるべきなのでしょうねえ。まあ、それがお互いできていいないので、うちの場合はもうこの年からの単身赴任は避けた方がいいのだろうなと思います。これ、長いこと別居が続いたとしたら、同居に戻った時に果たしてうまくいくのだろうか、と思っちゃいますね。中年？熟年？単身赴任をしている方がいらっしゃつたら、お話を聞かせてほしいです（笑）。